パワフルな引きと抜群の味覚 新年も有望!! 外房のマハタ

外房大原港出船

★マハタは引きよし、姿よし、食味よしと三拍子そろった好ターゲット

▲ヒラメ仕掛けでキャッチ

▲竿はハリ掛かり後の強烈な突進を受け止めるバットパワーが求められる

▶エサが豊富なのか胴回りが太い個体が目立った

▲船中最初のマハタは１本バリ仕掛けで上がった

◀若魚は白い縞模様が鮮やか

▶１キロ前後がアベレージ

▲タナは底から２～３メートル。まめなタナ取りが誘いにもなる

▲３キロ級のヒラメも上がった

マハタに的を絞るなら1本バリがおすすめ

◉ヒラメとマハタを併せて狙う乗合船ではハリス６号のヒラメ仕掛けが中心ながら、マハタに的を絞るなら大型に備えてハリス８号以上の１本バリがおすすめだ。

◀市販のヒラメ仕掛けを使う場合もハリス７～８号の大物仕様なら安心、オモリは80号

▶生きイワシはエサにちょうどいい15センチ前後のマイワシが入荷中

▲マハタは大きな口でエサを丸飲みするため１本バリ仕掛けを使う人も多い

▶１本バリ仕掛けはイワシが弱りにくいメリットもある

◉当日最大2.5キロ

▲最後の流しで２キロ級が連発

撮影◉本誌編集部

シャープでパワフルな引き、堂々とした体格、万人が認める抜群の味覚を持つマハタは、釣り人なら一度はチャレンジしたいターゲット。

釣り場は関東周辺では南伊豆と房総半島などにあり、近年魚影が増加し注目を集めているのが外房エリア。

当地はヒラメと併せてマハタを狙う乗合船が増えており、取材した大原港・天の清栄丸では釣り人の要望に応えてマハタ専門船も出す。

釣り場は太東～岩船沖の水深30～60メートル前後に無数に点在する根周りや岩礁帯。12月下旬の取材日は、潮が流れず全般にアタリが遠かった。それでも皆さん手を休めず釣り続け、2.5キロを頭に全員マハタを確保した。

当地のマハタは春までのロングラン。潮具合など条件がそろえば釣果アップも望めるだろう。

（詳細は50ページ参照）

▲カジメが繁ったポイントは根掛かりに注意

▼当日は大原沖の水深25～35メートル付近を流した

◉外房大原港・天の清栄丸
天野 清樹船長